

■ 投与方法

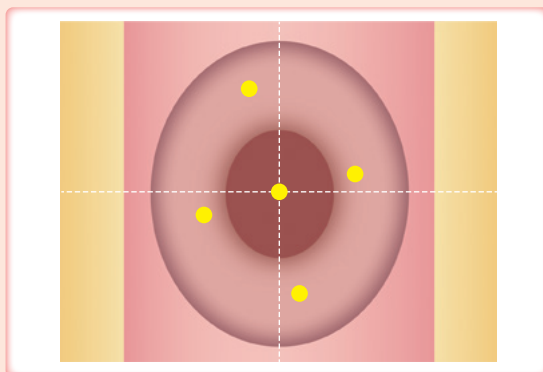
2型食道癌の場合

1 まず腫瘍全体を観察し、投与箇所を決定します。

投与箇所は薬液が腫瘍全体に行き渡るよう、腫瘍の大きさに合わせて5から10カ所とします。

必要に応じて画像強調イメージを使いながら病変を観察し、投与部位を決定してください。

注意 本品の失活を防ぐため、ヨード染色は行わないようにしてください。



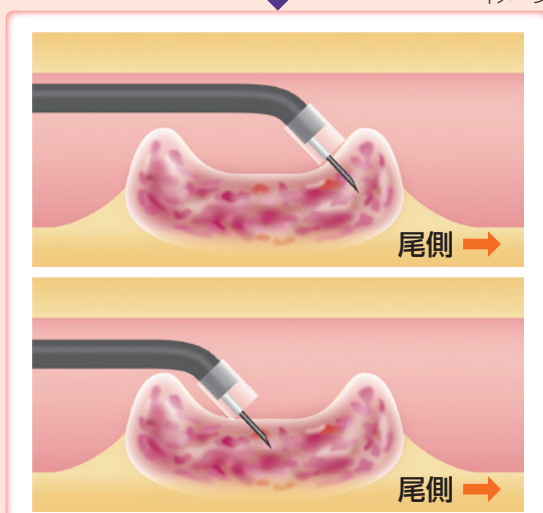
イメージ

2 病変部が確認できたら、鉗子チャンネルより内視鏡用穿刺針を挿入し、尾側の腫瘍辺縁から順に口側の腫瘍辺縁に向かって腫瘍全体に薬液が行き渡るように注入します。

これは投与時の出血により投与部位が見えなくなることを防ぐためです。

薬液は癌細胞が活発に分裂している部位に投与することが望ましく、腫瘍周堤基部や腫瘍の辺縁部を狙って注入します。

注意 壊死を起こしている可能性のある部位への投与は避けてください。

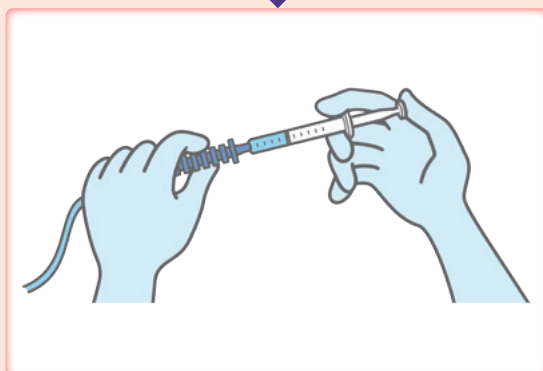


イメージ

3 1カ所あたり0.2 mLを目安として5～10か所にバランスよく投与します。

薬液を患部に注入する場合、生理食塩水を充填したシリンジを使い、注射担当者がメモリを確認しながら1カ所あたり原則0.2 mLを目安として5秒程度かけてゆっくりと注入します。

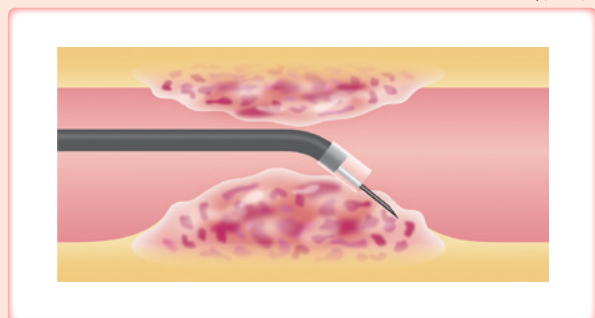
注意 2回目、3回目に投与を行う際、腫瘍の縮小により腫瘍が確認できない場合は、1回目の投与と同じ部位に投与を行ってください。



食道狭窄の場合

食道狭窄により通常の内視鏡が通過困難である場合は、必要に応じて細径処置内視鏡を使用し、1カ所あたり0.2 mLを目安として5カ所以上に投与してください。

イメージ



表在型や腫瘍の隆起が少ない場合

なるべく注射針を水平にし、腫瘍内に投与を行ってください。

注意 薬剤が希釈されるおそれがありますので、腫瘍を隆起させるための生理食塩水の粘膜下注入は行わないでください。

イメージ

